

私の大原ベストポジション



大原草紙



第76号
令和3年7月
夏季号

草生町
ノブコ・ウエダ(森伸子)
シンメトリーな世界



大原に移って早三十六年。毎年の田植えのこの時だけいつもの山里の風景が少し変わります。水のはった田は湖面のごとくシンメトリーの世界を見せてくれます。初めて大原の家を見に来た時、その美しい風景に感動したものです。

引越した年に京都市内で個展を控えていた私は自宅から望む比叡山へと続く大原の山々を砂岩で彫刻、空に浮かぶ雲は大理石を使ってギャラリ空間に展示しました。お気に入りスポットは毎朝眺める我が家から南へ望む大原です。田んぼと紫蘇畑、まわりは穏やかな山々に包まれます。すぐ近くの高野川沿いは桜並木の小道で水の音を聞きながらの散歩は癒されます。春の桜のピンクと菜の花の黄色のコントラスト、秋の紅葉、そして冬の銀世界と色彩豊かな自然の移り変わり、なんといっても雨の後の小野霞には飽きることなく何度かレンズを向けます。そして夜、紺青の世界に点々灯りが輝く漆黒の大原もお気に入り、深夜家の灯りを消してその静けさを味わいます。そんなこの地で二人の息子を育て次男は大原にて食の仕事をしたいと戻ってきます。よそ者だった私も子供に引き継ぐことで大原人といえるでしょうか。

京都大原里づくり協会

第20回 総会報告

去る5月29日、第20回総会が開催されました。今回の総会は昨年度に続き「コロナウイルス禍」の中であり感染拡大防止のため、会議開催を取りやめ議決書によるものといたしました。議決書と出席者の議論によって次のように当面の活動等を取り決めました。

1 出席者：理事、事務局6名 委任状47名（会員総数89名）

2 主な決定事項

- ・事業報告、決算、事業計画、予算原案で承認
- ・暫定的な理事会態勢から、5月10日の理事会において新理事長として西田誠を選任し、令和3年度の理事会体制を確立しました。（任期は第21回総会までの間）
- ・コロナ禍の中で集まることは抑制的にならざるを得ないので、実施にあたっては慎重に検討致します。
- ・今年度の会費は徴収しない。
- ・大原草紙は従来通り発行する。
- 3 里づくり協会の今後の活動について

- ① 創立の原点に立ちかえり
- ・今年度里づくり協会は創設20年を迎えます。（NPO 法人認可は

2003年4月1日）

- ・発足時、活動目標に立ち返り
- ・大原の原風景を守る里づくり
- ・歴史と自然を守る里づくり
- ・新しい観光と農業の振興による里づくり

多世代が楽しく暮らせる里づくり総会の議論を踏まえ、三密を避けて里づくり協会のホームページを活用し、情報発信・交流を深めたいと思います。

■ 京都大原里づくり協会HP

<https://npo-ohara.com>

皆さまの閲覧と投稿をお願いします。

理事長退任のご挨拶

榎並 博一



在任中の思い出に惟喬親王法要の120ぶりの復活、明治から平成までの写真を集めた写真アルバム「大原の里」の刊行。各町の歴史、伝説の聴き取り調査といった取り組みは就任時に「温故知新」を掲げて実現できたことでした。皆さまのご協力に心から御礼申し上げます。

理事長就任のご挨拶

西田 誠



20年前、熱く高い志の仲間にご案内、当会の立上りに関りました。以来大原草紙の発行中心に活動に参加してきました。ままならぬ世代

交代と、集合離散がありました。今最大のピンチの時期、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めのかからぬ今と、終息後のこの里に残って欲しい組織です。石の上にも3年。今は熟慮しつつ、3年間で組織の若返りと、コロナ後の大原がそれ以前よりよくなるよう関係の皆さまと精力的に取り組みたいと考えております。皆さまのご参加をお待ちしております。

勝林院研究会から

上田 壽一

勝林院の歴史的文書を中心とした研究会を4月15日、「大原健幸の郷」で開くことが出来ました。夕方5時からで、集まりにくいかと心配しましたが、約40名の参加がありました。内容はNPOの西田さんが「大原盆について」私は勝林院証拠堂は本来、龍禅院と呼ばれていたとの話をしました。宇野先生は勝林院・来迎院の概説をされました。コロナ禍の中、開くべきか否か大変迷いましたが、感染防止の努力をしながらも集まって話し合う事は大切な事だと思いつ行しました。

次回・9月16日（木）15時 勝林院講師 京都産業大学 鈴木先生『最近行った魚山周辺の調査について』

2月の日々
寒中忙有り その2

西田 誠



おにう峠 朽木側は小入谷地区・小浜側は遠敷地区

朽木藩主が参勤交代の際十六弁の菊盆を土産物として江戸に持ち込んだ、木地山集落には轆轤からひいた「ろくろ分校」が昭和30年代半ばまであったと朽木村史に詳細に記されている。

早春賦を唄いながら

鯖街道を朽木へ

木地山集落が今もある、その空気を吸いたいと春まだ浅い日若狭街道を走る。何度も行った朽木市場から小浜方面への道、「信長の隠れ岩」あたりを左折、麻生川をたどってゆくと集会所とバス停、土蔵のある家、高みの所にあるのはお寺だろうか。小さな木地山集落はどこか懐かしさを感じさせる。仕事の中の人に出会った「ろくろ分校卒業生」だが木地師にまつわる話は知らないという。明治の10年代に最後の木地師は亡くなったという。

鯖街道は古くは「鯖の道」

若狭で水揚げされた海産物を京都へ運ぶことは古くから盛んであった。往時は「鯖の道」近年になってマスコミにのって「鯖街道」となった。古くは「山腹や尾根を行く」最短距離を選び急坂をいとわなかったようだ。

いま京都 大原学院で

ごあいさつ

京都大原学院校長

瀧本祐一郎



みなさん、はじめまして。今年度から京都大原学院に校長として着任致しました、瀧本祐一郎（たきもとゆういちろう）です。どうぞよろしく願います。

早いもので、着任からもう2ヶ月の間、私の校長としての最初の仕事は、まずは聞くこと、そして知ること、この二つです。石飛前校長との最初の引き継ぎ。手渡された宮崎元校長の著書や10周年記念誌を読む。そして学校運営協議会で聞かせていただいた、田家理事長をはじめとするみなさんの学院への熱い思いから、「この学校の歩んできた歴史と地域の思いを、これからの教職員に伝え、継続していくことの重要性」を、きちんと聞き、受け止める。

学校が始まってからは、日々の教育活動の中で子どもたちの様子を見て、聞いて、話して、子どもたちのことを知る。教職員のことを知る。大原を歩いて地域を知る。

わからないことは何でも、誰にでも尋ねる。知らなくて当然。大原に対しても、校長職に対しても初心者・新人の私には、「若葉マーク」ゆえの強みがあります。だから遠慮なく聞いてまわっています。

その中で、大原という地のもつ歴史的・重層的な文化力。常にそれらを磨き、更新し続けようとする先取・先進の気風。それらを実現していく地域の確かな実行力。資料で読んだそれら大原の力を、毎日、地域の皆さんや保護者の皆さん、そして児童・生徒の皆さんと教職員から具体的な姿やかたちで感じていきます。あわせて、尋ねたときに感じる温かさや親切さも。地域と学校に携わるすべての人々が、一貫校開校当時の「志」を、絶やすことなく受け継いできた努力。それを毎日自分に確認するために、「継志」と書いた書を校長室に掲げています。そして毎朝、その文字を見ることから一日をスタートさせています。

志を継ぐ。地域の宝であるこの学校を大切に、存続・発展させる志を受け継ぎ、これから精進して参ります。至らぬ事はかりですが、地域の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

第4回 大原提言大人編 論文募集

京都大原学院9年生による「大原提言発表会」にならない第4回「大原提言大人編」を実施します。前回同様、コロナウイルスの感染拡大を防止するため、当大原草紙の紙面で提言発表会と致します。提言の応募規定は次のとおりです。皆さまの応募をお待ちしています。

- テーマ 大原の未来への提言
- 論文の長さ 800字以内
- 手書き原稿・データによるものどちらでも結構です。
- 応募締切

手書き原稿 8月22日（日）
データ原稿 8月29日（日）

■発表

大原草紙第77号「秋季号」紙上

■採用数 3〜4件

応募多数の際は選考委員会で選定いたします。

■問合せ・編集部 西田

090・4649・0633

大原草紙原稿募集

お気軽にお問い合わせください。

■問合せ・編集部 西田

京都大原里づくり協会会員募集中

一般会員 年間3000円
賛助会員 年間1000円

今年度は会費は徴収いたしません。

①鞍馬口―深泥池―鞍馬―百井―大見―尾越―久多―針畑―小入谷（オニウタニ）―根来越（ネゴリコエ）―神宮寺―遠敷―小浜

このコースはアップ・ダウンが多くあったが各峠付近の集落の住民が荷役をすること、関所が少なくコスト安であったようです。

②出町大原口―山端―大原―途中峠―花折峠―葛川―木戸口―坊村―梅の木―朽木荘―市場―保坂―熊川―遠敷―小浜

高所は花折峠では平たんな所、通行は多くなったが関所が多く費用がかさんだようです。

③鷹ヶ峰―京見峠―杉坂―笠峠―栗尾峠―周山―深見峠―名田庄―谷田部―小浜

小出石町の北西方向に「ナツチョ山」がある。変な名前だ。以前この山の持ち主の一人に「なんでこんな名の山」と聞いた「言い伝えでは年貢を納める場所だった」と言われた。最近調べたところ納所と書き「ナツシヨ」と読む。意味は「年貢を扱う場所、役人等」とある。ナツシヨがナツチョに訛ったのだろうと納得。また、百井町の長老が「百井の東の山頂に朽木の殿さんが馬に乗って来ていた」と年寄りから聞いたという。

木地山地区
ろくろ分校跡





れんさいマンガ
★ 75 ★
アズマツネオ



キッズファーム
in 京都大原



こんにちは！
キッズファーム代表の
廣瀬です



私たちは大原で、お子様と
そのご家族向けに農業体験と
食育活動をしている団体です。
来迎院町の畑にある畑では、
農薬を一切使用せず、年間約
20種類くらいの野菜を子ども
達と一緒に栽培しています。
食べることに関するプログラ
ムでは、畑で採れた野菜を
使った調理体験のほか、季節
によってみそ仕込みやお餅つ
きなどを行っています。5月は
”いのちをいただく”をテーマ



に、ニワトリの解体も実施し
ました。
キッズファームでは子ども
達の「やってみたい！」の気持
ちに寄り添いながら、子ども
達が思い思いに挑戦でき、た
くさん失敗もできる、そんな
場を作りたいと思っています。
―食べることは生きること―
キッズファームでは食農体験
を通して健やかな子育てを心
援しています。



キッズファーム in 京都大原

- 活動拠点：大原公民館
つどいの広場ぴーちくぱーちく
- 開催日：毎月第1・3土 or 日
毎月第4金曜日午前中
- 連絡先：
wakuwaku_kidsfarm@yahoo.co.jp

表紙の横顔

ノブコ・ウエダ(森伸子)さんのプロフィール

愛知県岡崎市生まれ、東京の女子美術大学では油絵を学び卒業後は名古屋を中心に美術活動傍ら短大などで講師の仕事を経る。結婚を機に京都へ移住後は関西中心に発表して近年は海外との交流展を積極的に行う。絵画教室を大原と岩倉で主宰、石の彫刻と版画の制作中心に活動する。

■HP <https://nobukoueda.com>



無料で譲ります

koizumiの学習机と椅子。小キズはありますがしっかりしていてまだ使えるので欲しい方があればお譲りいたします。早めのご連絡があります。早めのご問合せ・編集部 西田
090・46649・0633